

## VI 特定苗木による低コスト再造林の手法の確立

(実施期間: 令和7年度～11年度 予算区分: 県単 担当: 赤井広野)

### 1 目的

県内の人工林が本格的な利用期を迎えており、再造林を円滑に進めるために造林費用のコスト低減を図る必要がある。その手法の一つとして、成長が早い苗木であると考えられている特定苗木を植栽し、下刈り期間等を短縮する方法が全国的に注目されている。当県では、令和6年秋に特定苗木が初めて出荷・植栽されたが、県内の気象条件においてどのような成長をするのか不明である。ついては、特定苗木の初期成長等を調査し、県内の気象条件における成長状況及び特長が発揮される林分条件を明らかにし、当該苗木を用いた低コスト再造林の手法を確立することを目的とする。

### 2 実施概要

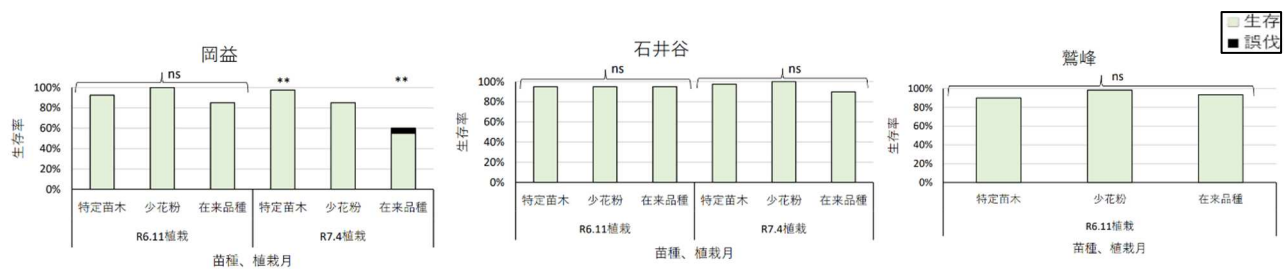
#### (1) 方法

鳥取市国府町岡益、鳥取市国府町石井谷及び鳥取市鹿野町鷲峰において、令和6年11月及び令和7年4月に植栽したスギ特定苗木コンテナ苗(以下、特定苗木)280本、少花粉スギコンテナ苗(以下、少花粉)140本、及びスギ在来コンテナ苗(以下、在来品種)140本、合計560本の生存率及び樹高を調査した。調査期間は令和7年4月から11月であり、期間中は毎月1回の調査を行った。

#### (2) 結果

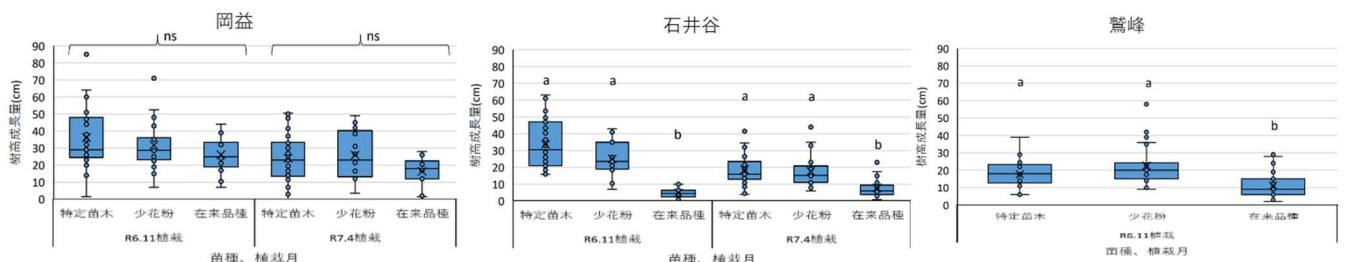
令和7年11月時点における特定苗木の生存率は、全ての試験地において90%以上の高い活着率であった(図1)。特定苗木は、11月植栽及び4月植栽のどちらでも、従来の品種である少花粉及び在来品種と同程度の生存率が期待できる。

令和7年4月から令和7年11月までの樹高成長量は、石井谷及び鷲峰において、特定苗木が在来品種より有意に大きかったが(図2)、試験地により樹高成長量のばらつきがみられるため、今後、試験地をさらに追加していく必要がある。



注: ns は有意差が見られない、\*\*は 1%有意差を示す。(生存率についてカイ二乗検定及び残差分析)

図1 令和7年11月時点における各試験地の苗種毎生存率



注: 異なるアルファベットは 5%有意差を示す。(スティーブ・ドゥワース検定)

図2 令和7年4月から令和7年11月までの各試験地の苗種毎樹高成長量